別紙資料

1．21世紀海域学プロジェクトのイメージ
2．立教大学所蔵外邦図インデックスマップとその閲覧方法
3．外邦図＋GIS 地図デジタルアーカイブのイメージ
4．「欧文アジア関係文献集成：東南アジア編」原典表紙、及びその整理した成果
（1）文献総数 （2）Reel 37, Location 4.0001 オランダ語 （3）欧文オランダ語
（4）Reel 102, Location 2. 0001 スペイン語 （5）欧文スペイン語

＜成果報告書・研究報告書＞

5．私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 2013 年度研究報告書1表紙、及び目次
6．私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 2014 年度研究報告書2表紙、及び目次
7．私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 2015 年度研究報告書3表紙、及び目次

【2013 年度】

8．アジア地域研究所 2013 年度公開講演会、
2013 年 10 月 19 日（土）実施、ポスター
9．私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 2013 年度公開シンポジウム、
2013 年 12 月 22 日（日）実施、ポスター
10．ベトナムダラット開催展覧会「Đà Lạt – Et la carte créa la ville…」図録
2013 年 12 月 9 日から 2013 年 12 月 15 日実施展覧会（1）図録表紙（2）（3）提供外邦図掲載2頁
11．2014 年 2 月発行『立教大学所蔵 外邦図目録』（1）表紙、（2）本文1頁目
12．2014 年 3 月発行「なじまぁ－Accessible Asia-」04 号（1）表紙、（2）目次、（3）外邦図コラム

【2014 年度】

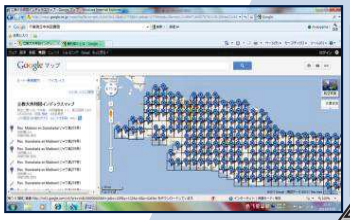
13．私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 2014 年度研究セミナー、
2014 年 5 月 17 日（土）実施、ポスター
14．私立大学戦略的研究基盤形成支援事業共催 2014 年度公開講演会、
2014 年 5 月 30 日（金）実施、ポスター
15．私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 2014 年度公開シンポジウム、
2014 年 6 月 21 日（土）実施、ポスター
16．私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 2014 年度公開講演会
2014 年 6 月 22 日（日）実施、ポスター
17．私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 2014 年度第2回公開シンポジウム、
2014 年 11 月 16 日（日）実施、ポスター
18．2015 年 3 月発行「なじまぁ－Accessible Asia-」05 号（1）表紙、（2）目次、（3）外邦図コラム

【2015 年度】

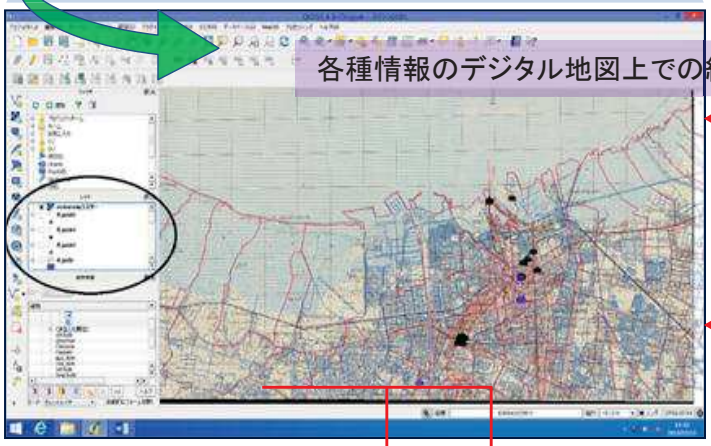
19．私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 2015 年度第1回公開シンポジウム、
2015 年 4 月 25 日（土）実施、ポスター
20．私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 2015 年度第2回公開シンポジウム、
2015 年 6 月 27 日（土）実施、ポスター
21．私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 2015 年度第3回公開シンポジウム、
2015 年 11 月 14 日（土）実施、ポスター
22．私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 2015 年度第4回公開シンポジウム、
2015 年 12 月 12 日（土）実施、ポスター

別紙１

21世紀海域学プロジェクト概要図



GISソフトによる、
デジタル化、
各種情報の
重ね合わせ作業



各種情報のデジタル地図上での統合

各チームの役割

統括チーム：外邦図の整理デジタル化、各種情報の地図上での重ね合わせ、データベース化、各チーム間の調整。

歴史学チーム：史料にもとづく歴史的事象の検討。
「欧文アジア関係文献集成：東南アジア編」内容の分析。

文化学チーム：フィールドワーク、文学作品などからの情報、写真などからの知見集約。

政治学チーム：海域の安全保障問題などの課題を空間的に把握。文献収集、海の戦争と平和の歴史的過程の分析

観光学チーム：観光に関する文献収集・海域のホテルネットワーク、海浜リゾートなどの研究。

アジア地域研究所
（本プロジェクト）

海域学研究拠点・情報センター　　**21世紀「海域学」の創成**

【研究成果の公開】

研究セミナー
公開講演会・公開シンポジウム
研究報告書
『なじまぁ』（アジア地域研究所年報）

★論集『海域学』の刊行★

【資料に関する情報提供】

デジタルアーカイブの公開
学術リポジトリーによる公開
海域学に関する各種情報提供

海域に関するシンクタンク機能

別紙２

立教大学所蔵外邦図インデックスマップとその閲覧方法

- 立教大学アジア地域研究所所蔵の外邦図について，Google マップ上にインデックスマップとして提示。
- ネット上で公開しているインデックスマップのイメージは下記の図１に示す。

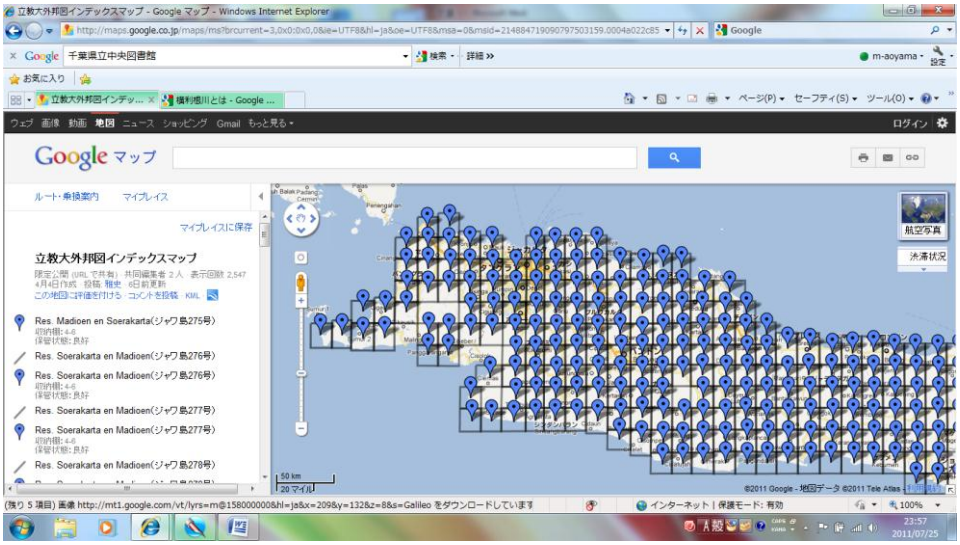


図１　ジャワ島 1/5 万外邦図インデックスマップの一部

- インデックスマップ上の枠をクリックすると、外邦図各図幅の図幅名，図示されている領域、保管場所（どの棚に保管されているか），保管状態（破損，紙焼け，折れの有無など）などの情報が示される。

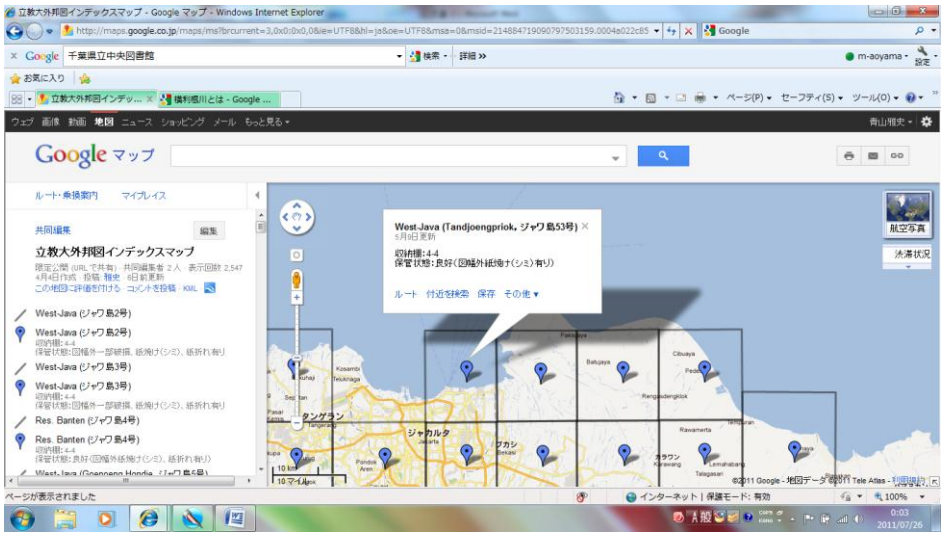
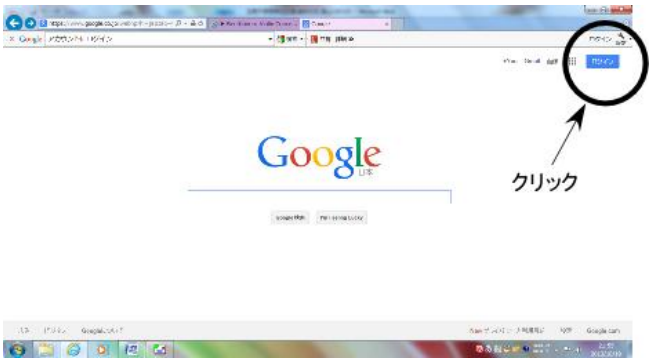


図２　ジャワ島 1/5 万外邦図インデックスマップでの入力内容例

- 外邦図インデックスマップ閲覧方法

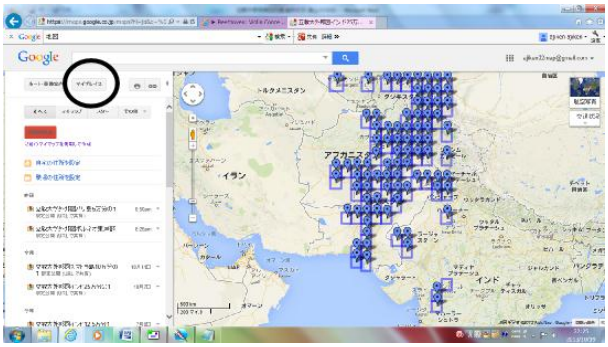
① インターネットからグーグルのサイトにアクセス。



② Google トップページ右上の「ログイン」をクリック

③ ログインページでアカウント名（メールアドレス）を ajiken02map@gmail.com と入力

④ その下のパスワード欄に ajiken02map と入力



⑤ ログイン後、Google マップページ左上の「マイプレイス」をクリックすると、アジア地域研究所が収蔵している外邦図の一覧（地域、縮尺）が表示され、閲覧したい外邦図をクリックすると、その地域の外邦図インデックスマップが表示される。

外邦図＋GIS 地図デジタルアーカイブのイメージ
インドネシア・スマランを事例として

本プロジェクトでは、外邦図にデジタル地図を重ね合わせ、その上にフィールドワークで撮影した位置データ付き写真、史料から抜粋した情報などをリンクさせている。1940 年代の景観とさまざまな情報とを関連づけることにより、歴史的な過去と現在とを結び合わせ、海域学研究の基盤を形成する。特に、前近代から港町として反映した港市を対象に、デジタルアーカイブ構築を進めている。

一例として、インドネシア・ジャワ島のスマランの整理状況を紹介する。

利用に当たっては、QGIS（地理情報システムの閲覧、編集、分析機能を有するクロスプラットフォームのオープンソースソフトウェア・GIS ソフト）がパソコンにインストールされていることが前提となる。
⇒　https://www.qgis.org/ja/site/forusers/download.html

- 「スマラン QGIS」フォルダ内のファイル「スマラン QGIS」を開く

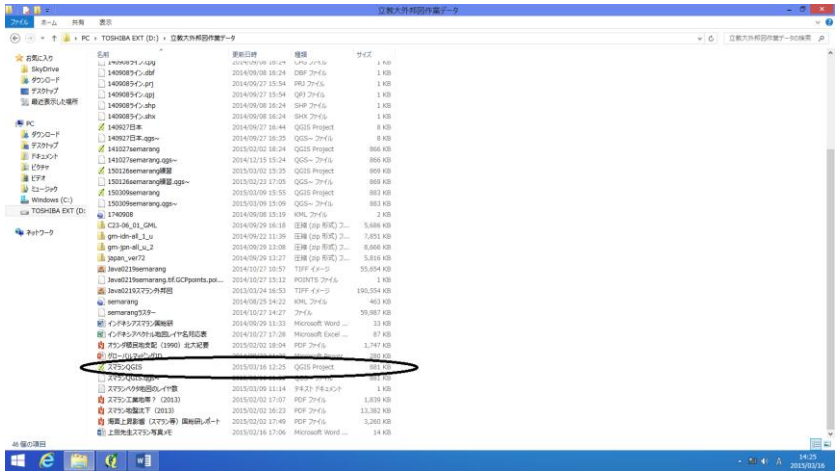


図１　「スマラン QGIS」フォルダ

- メイン画面左側のレイヤリストで表示させたいレイヤの選択が可能

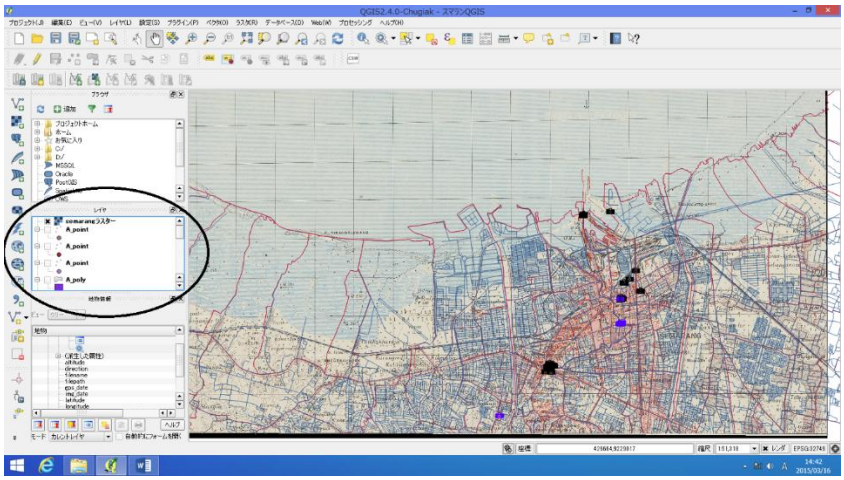
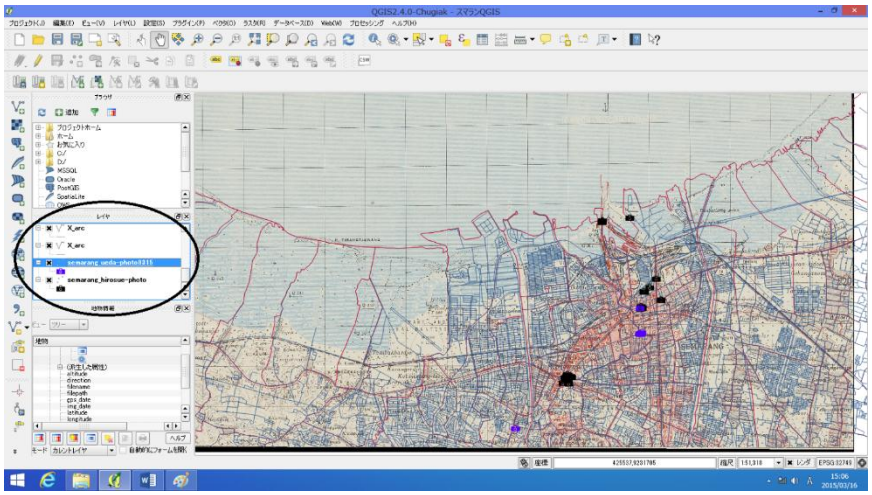


図２　スマランの外邦図とデジタル地図のレイアを表示した場合
着色された図が外邦図、赤線で示されている図が現在のデジタル地図の道路網

※レイヤリストでチェックを入れたレイヤのみがメイン画面上に表示される
※スマラン市街地の外邦図を表示させたい場合は，「semarang ラスター」にチェックを入れる
※現在の道路網を表示させたい場合は，「K-arc」にチェックを入れる
※各レイヤの内容については，「スマラン QGIS」フォルダ内の「インドネシアベクトル地図レイヤ名対応表.xls」に記載されている．

- GPS 機能付きカメラで撮影した写真を閲覧したい場合
  ※あらかじめ「プラグイン」の一覧中にある「Photo2Shape」をインストールしておく必要がある

① 上田が撮影した写真を閲覧する場合は，レイヤリストの「semarang_ueda-photo03115」にチェックを入れる．
弘末が撮影した写真を閲覧する場合は，レイヤリストの「semarang_hirosue-photo」にチェックを入れる．



② レイヤリストの「semarang_ueda-photo03115」（弘末撮影の写真を閲覧する場合は「semarang_hirosue-photo」）の上で左クリックし，写真のレイヤが選択されている状態にする（選択されているレイヤが青く表示される）

③ 上部中央付近のアイコンの「写真を開く」を左クリックし，選択された状態にする（「写真を開く」が青く表示された状態にする）

④ 写真を撮影した地点にカメラアイコンが表示されており，そのアイコン上でカーソル（十字）を左クリックすると，その地点で撮影された写真が表示される

『欧文アジア関係文献集成：東南アジア編』

マイクロフィルムおよび所収文献総数

・マイクロフィルム本数および文献数
マイクロフィルム：163 本
所収文献：1016 タイトル
【※但し 1 タイトルに複数の文献が所収されている文献も多数あり】
・構成
Part 1: 16th and 17th century titles. (Reels 1-12) 80 タイトル
Part 2: 18th century titles. (Reels 13-49) 120 タイトル
Part 3: 19th century titles in English. (Reels 50-82) 201 タイトル
Part 4: 19th century titles in languages other than English. (Reels 83-119) 254 タイトル
Supplement to Part 2: 18th-century titles. (Reels 120-131) 40 タイトル
Supplement to Part 3: 19th-century titles in English. (Reels 132-136) 45 タイトル
Supplement to Part 4: 19th-century titles in languages other than English. (Reels 137-163) 276 タイトル
・使用言語
フランス語：406 タイトル
英語：336 タイトル
スペイン語：117 タイトル
ドイツ語：78 タイトル
オランダ語：54 タイトル
ラテン語：10 タイトル
イタリア語：9 タイトル
ポルトガル語：5 タイトル
ロシア語：1 タイトル

別紙４(２)

VERHANDELING
OVER DE
ROTKOORTZEN,

Welke in de voorige jaaren, voornaamelyk van 1770 tot 1774., zoo wel te Land als inzonderheid op de uitgaande O. I. C. ſcheepen, geregeerd hebben.

WAARIN

Derzelver oorſprong, voortgang, aart en waare geſteldheid onderzocht; de behoedmiddels daartegen aangeweezen, en de Geneeswys daarvan beſchreeven word.

VOORTS

De beſte wys, om by ſtormend en regenachtig weder in een beſloten Schip friſſche en zuivere lucht te brengen, door middel van eene verbeeterde ſtelling des Luchtzeils, en het plaatzen van eene door den Schryver NIEUW UITGEVONDENE VEILIGE EN WELWERKENDE MACHIENE.

NEVENS

Een onpartydig betoog van de nuttigheid der DRIEDEKS *boven de* TWEEDEKS SCHEPEN, *en aanwyzing van verſcheidene misbruiken in de Schepen, benevens de middels tot herſtel derzelven.*

MET TWEE OPHELDERENDE PLAATEN,

DOOR

JOAN FERDINAND ELLERBECK,

Opper Chirurgyn in dienst der Ed: O. I. Comp.

Te ROTTERDAM,

By JACOBUS BRONKHORST,

en zyn mede te bekomen te Middelburg

By C. BOHEMER.

M. D. C C L X X X.

オランダ語分

Reel 37

Location 4

Reel 127

Location 2

著者

Ellerbeck, Joan Ferdinand.

タイトル

Verhandeling over de rotkoortzen, welke in de voorige jaaren, voornaamelyk van 1770 tot 1774., zoo wel te land als inzonderheid op de uitgaande O. I. C. scheepen, geregeerd hebben. Waarin derzelver oorsprong, voortgang, aart en waare gesteldheid onderzocht; de behoedmiddels daartegen aangeweezen, en de geneeswys daarvan beschreeven word. Voorts de beste wys, om by stormend en regenachtig weder in een beslooten schip frissche en zuivere lucht te brengen, door middel van eene verbeeterde stelling des luchtzeils, en het plaatzen van eene door den schryver nieuw uitgevondene veilige en welwerkende machiene. Nevens een onpartydig betoog van de nuttigheid der driedeks boven de tweedeks schepen, en aanwyzing van verscheidene misbruiken in de schepen, benevens de middels tot herstel derzelven. Met twee opheldernde plaaten, door Joan Ferdinand Ellerbeck, opper chirurgyn in dienst der Ed: O. I. Comp.

かつて、主に1770年から1774年に陸上と外国へ向かう東インド会社の船舶において管理された伝染性の熱病に関する論考。その起源や進行、性質、状況を検討し、そこから熱病に対して示された治療法、また、空気を入れるために改善した航行手段による荒天や雨天の際に閉じ込められた船内へ新鮮かつ清潔な空気をもたらすために最良な方法、著者により新たに考案された安全かつ機能性の高い機械のある船内、加えて、2層デッキ船に対する3層デッキの効用に関する公平な論証、船舶における様々な失敗の説明、さらには、その修正手段について、それぞれ記述。説明用図版2点を付記。尊敬すべき東インド会社にて上級外科医として従事したヨアン・フェルディナント・エレルベック著。

版情報

〔無し〕

出版情報

Te Rotterdam : By Jacobus Bronkhorst , 1780.

En zyn mede te bekomen te Middelburg : By C. Bohemer.

言語

Dutch

テーマ

医学、造船

地域

〔オランダ、インドネシア〕

ページ

xvi, 176 pages, II leaves of plates : illustrations

別紙４(４)

RESEÑA HISTORICA

DE LA GUERRA

AL SUR DE FILIPINAS,

SOSTENIDA

POR LAS ARMAS ESPAÑOLAS CONTRA LOS PIRATAS

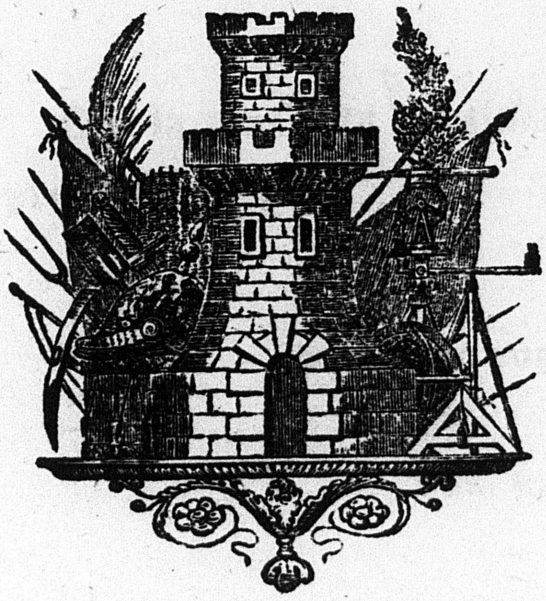
DE AQUEL ARCHIPIELAGO,

DESDE LA CONQUISTA HASTA NUESTROS DIAS.

POR EL CORONEL

DON EMILIO BERNALDEZ,

CABALLERO DEL HÁBITO DE SANTIAGO,
DE LA REAL ÓRDEN AMERICANA DE ISABEL LA CATÓLICA,
DE LA MILITAR DE SAN FERNANDO DE PRIMERA CLASE,
CONDECORADO CON LA CRUZ DE DISTINCION DE JOLÓ,
INDIVIDUO DE LA SOCIEDAD DE AMIGOS DEL PAIS DE FILIPINAS,
OFICIAL DE INGENIEROS DEL EJÉRCITO, ETC., ETC.



MADRID:
IMPRENTA DEL MEMORIAL DE INGENIEROS.

1857.

スペイン語分

Reel 102

Location 2

著者
Bernaldez, Emilio.
タイトル
Reseña Historica de la Guerra por las Armas Españolas Contra los Piratas de Aquel Archipielago, desde la Conquista hasta Nuestros dias. Por el Coronel Don Emilio Bernaldez, Caballero del Hábito de Santiago de la real órden Americana de Isabel la Católica, de la militar de San Fernando de Primera Clase, Condecorado con la cruz de distincion de Joló,individido de la sociedad de amigos de pais de Filipinas, Oficial de ingenieros de ejército,Etc.,Etc.
征服の時代から現在までの（フィリピン）諸島の海賊に対抗して起こったスペイン軍による戦争の歴史の記述。ドン・エミリオ・ベルナルデス大佐著。イサベルカトリック女王アメリカ王立騎士団のアビト・デ・サンティアゴ騎士団の騎士、第一級サン・フェルナンドの軍人、ホロの栄誉の十字架を授けられ、フィリピン国社会の一員、軍事技師の将校等々。
版情報
〔無し〕
出版情報
Madrid : Imprenta del Memorial de Ingenieros, 1857 .
言語
Spanish
テーマ
戦争
地域
フィリピン
ページ
243, [4] p. : 3 fold. maps.

平成 25 年度　私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

別紙 5

21 世紀海域学の創成

―「南洋」から南シナ海・インド洋・太平洋の現代的ビジョンへ ―

研究報告書 1

平成 27 年 3 月

立教大学アジア地域研究所
Centre for Asian Area Studies, Rikkyo University

別紙５

目次

I. 構想調書抜粋---------- p.1

II. 公開シンポジウム「防災における文化の役割―国際防災協力と災害文化の醸成―」

- ◆ 開会挨拶---------- p.5
- ◆ 高藤洋子「先人の知恵に学ぶ防災　インドネシア・シムル島およびニアス島の事例」 ---------- p.6
- ◆ 鈴木佑記「海と民話と高台と：2004 年インド洋津波を回避した海の民モーケンの事例」 ---------- p.19
- ◆ 西田昌之「災害文化創造の試みと課題―タイ国タクワパー郡バーンナムケムのコミュニティ防災」 ---------- p.26
- ◆ 前林清和「わが国における津波伝承としての石碑を問い直す」 ---------- p.33
- ◆ 濱田圭吾　コメント１---------- p.39
- ◆ 中島邦公　コメント２---------- p.42
- ◆ 澤山利広　コメント３---------- p.43
- ◆ パネルディスカッション---------- p.44
- ◆ 閉会挨拶---------- p.57

III. 公開講演会

重松伸司「陸境のアジア、海境のアジア―『海域』研究の一試論―」 ---------- p.58

IV. 公開シンポジウム「海域学の展望を拓く―過去から現在、そして未来へ―」

- ◆ 開会挨拶---------- p.71
- ◆ 上田信「21 世紀海域学の課題」 ---------- p.72
- ◆ 太田淳「貿易、戦争、移民：18-19 世紀マレー海域の海賊」 ---------- p.78
- ◆ 堀本武功「現代インド洋を考える」---------- p.91
- ◆ パネルディスカッション----------p.102

V. 研究セミナー１

- ◆ 開会挨拶----------p.120
- ◆ 青柳まちこ「日本が夢見た南の島々」 ----------p.121
- ◆ 梅原弘光「スペインのフィリピン群島占領と住民の抵抗」 ----------p.129
- ◆ 小西正捷「南アジアの海域世界－地域区分の試み」 ----------p.153
- ◆ おわりに----------p.167

VI. 研究セミナー２

倉田明子「ギュツラフと東・東南アジアにおけるプロテスタント布教」----------p.171

表紙：ボロブドゥール寺院遺跡のレリーフ

平成 25 年度　私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

別紙 6

21 世紀海域学の創成

―「南洋」から南シナ海・インド洋・太平洋の現代的ビジョンへ ―

研究報告書 2

平成 27 年 7 月

立教大学アジア地域研究所

Centre for Asian Area Studies, Rikkyo University

別紙６

目次

Ⅰ．研究セミナー「外邦図と水路図」

- 開会挨拶 …… p. 1
- 小林茂「東南アジアの近代地図整備過程における外邦図 」 …… p. 3
- 舛谷鋭　コメント１ …… p. 19
- 今井健三 「昭和初期から終戦までに水路部が作製した機密海図について
  ―その作製背景と内容及び整理状況と利用の可能性―」 …… p. 23
- 大塚直樹　コメント２ …… p. 35
- ディスカッション …… p. 39

Ⅱ．公開シンポジウム「南洋と沖縄」

- 開会挨拶 …… p. 47
- 豊田由貴夫「南洋とは何か」 …… p. 49
- 藤林泰「かつお節から見た沖縄と南洋の出会い」 …… p. 55
- 小西潤子「もうひとつの沖縄音楽の足跡　―南洋における音楽交流―」 …… p. 71
- 瀬名波孝子・伊良波さゆき・細井尚子「沖縄芝居の南洋巡業」 …… p. 81

Ⅲ．公開講演会「沖縄芝居に見る大衆娯楽の『近代』」

- 開会挨拶 …… p. 93
- 細井尚子 「沖縄芝居の紹介」 …… p. 95
- 瀬名波孝子・伊良波さゆき・細井尚子　「瀬名波孝子の芝居人生」 …… p. 99

Ⅳ．公開シンポジウム「日本占領下の南洋」

- 開会挨拶 …… p. 115
- KRATOSKA ,Paul「日本占領下のマラヤ」 …… p. 117
- 後藤乾一 「日本のインドネシア占領を考える」 …… p. 127
- 松永典子 「日本占領下の東南アジアにおける日本語教育
  ―マラヤ、北ボルネオを中心に― 」 …… p. 137
- 姫本由美子 「日本占領下インドネシアで語られた「大東亜共栄圏文化」の理念
  ―日刊紙「アジア・ラヤ」上の日本徴用文化人と現地作家の論説を中心に― 」 …… p. 145
- ディスカッション …… p. 159
- 閉会挨拶 …… p. 164

表紙：マカオ媽閣廟の岩に刻まれたジャンク

平成 25 年度　私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

別紙7

21 世紀海域学の創成

―「南洋」から南シナ海・インド洋・太平洋の現代的ビジョンへ ―

研究報告書 3

平成 28 年 3 月

立教大学アジア地域研究所

Centre for Asian Area Studies, Rikkyo University

巻頭言

文科省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業として進めてきた「21世紀海域学の創成」プロジェクトは、2013年度から進められ、今年度が最終年度となった。すでに2013年度・14年度に行われてきたシンポジウムなどの成果は、研究報告書１・２として整理を行っており、本報告書がその末尾を飾ることとなった。

プロジェクトではアジア地域研究所が収蔵している外邦図の整理を進め、目録を作成した。また、地図と対応させて歴史的に外邦図を読み取るために、「欧文コレクション東南アジア編」マイクロフィルムを購入、オランダ語・ポルトガル語など多言語に及ぶため、利用の利便性を高めるために、タイトルと内容概要を日本語でまとめた。これらの成果は、本学の学術リポジトリにて公開されている。アクセスの手順は、インターネットにて、

立教大学学術リポジトリ＞総合研究センター＞アジア地域研究所

と進むことで閲覧が可能となる。活用していただけたら幸いである。

2015年度には歴史学チームが中心となり、4月にシンポジウム「近世から近現代にいたる海域世界の社会統合―外来系住民と現地社会」開催し、6月には統括チームがシンガポール南洋理工大学において、東南アジア史研究の泰斗アンソニー=リード氏、レイナルド=イレート氏などを招いて海外シンポジウム“The Maritime Order and Social Integration in South-east Asia”（東南アジアにおける海域秩序と社会統合）を開催した。文化学チームが中心となり貿易陶磁研究会の協力を得て、11月に「貿易陶磁と文献史料から東アジア・東南アジアを考える」を開催することができた。

さらに、政治学チームが21世紀海域学として海域の人の安全保障に関するビジョンを探り、12月に国際シンポジウム「21世紀アジア国際政治の変動と海域学の創成」開催した。

観光学チームは、観光客の移動手段が海の客船から空の旅客機へと変化した19世紀末から現在にかけての観光の変容を明らかにするため、スリランカおよびインドネシア、タイにおいて現地調査を行った。

プロジェクトの最終年度であり、年度内に予算を執行する必要があったため、本報告書は2015年度の研究成果のすべてを盛り込むことができなかった。12月の国際シンポジウムについては、2016年度前半にアジア地域研究所のワーキングペーパーとして公表することを目指して、作業を進めている。また、アジア地域研究所の年報『なじまぁ』06号は、特集を組んでプロジェクトの成果の一端を掲載している。参照していただきたい。

この3年度にわたる研究プロジェクトを展開するなかで、新たな広い視界が拓けてきたように思われる。特筆される点としては、国際政治上の緊張が高まっている南シナ海・インド洋の議論のなかで、えてして見落とされがちな海に関わりながら生きる「人」の視点の重要性に気づかされたことを挙げることができよう。

研究報告書は立教大学のホームページに公開することを予定している。そのネット版では、著作権などの関係から、図版のいくつかを削除せざるを得ないので、ぜひプリント版の報告書も見ていただきたい。今後の「海域学」の進展のためにぜひ本報告書などを、多くの方に活用していただきたいと祈念している。

上田信（「21世紀海域学の創成」研究代表）

目次

目次

Ⅰ．公開シンポジウム「近世から近現代に至る海域世界の社会統合」

- 開会挨拶 …… p.1
- 重松伸司「17〜18世紀インドにおけるアルメニア海洋商人と英国東インド会社
  「1688年協約」をめぐって」 …… p.3
- 太田淳「南西カリマンタンの移民と社会変容」 …… p.11
- 弘末雅士「東インドにおけるヨーロッパ系住民と現地人妻妾
  植民地体制下の婚姻をめぐって」 …… p.19
- 山口元樹「東インドにおけるアラブ系住民と社会統合
  インドネシア・アラブ人協会によるイスラーム主義とナショナリズムの融合」 … p.31
- 豊田由貴夫「オセアニアにおけるBeachcombers」 …… p.41
- 吉原和男「タイの華人同姓団体　家族会・族親会に注目して」 …… p.51
- 栗田和明「東南アジアにおけるアフリカ系移住者」 …… p.65
- パネルディスカッション …… p.77

**Ⅱ．公開シンポジウム「貿易陶磁と文献史料から東アジア・東南アジアの歴史を考える
16世紀・17世紀を中心とした海域におけるヒト・モノの流れ」**

- 開会挨拶 …… p.87
- 坂井隆「アジア陶磁貿易史での台湾の役割」 …… p.89
- 金沢陽「後期倭寇研究の成果から見た、
  16世紀東シナ海の政治・経済情勢と貿易陶磁」 … p.105
- 宮田絵津子
  「マカオ出土の中国陶磁　マカオ - マニラ - アカプルコへのつながり」 …… p.121
- 久礼克季
  「台湾鄭氏 - 中国南部 - 東南アジアを結ぶ諸条件とオランダ東インド会社」 p.133
- 伊川健二「ルソン壺交易と日比通交」 …… p.149
- 総合討論 …… p.167

表紙：ムスリム鄭和のレリーフ

立教大学アジア地域研究所　2013 年度 第 2 回公開講演会

海境のアジア、陸境のアジア
－ 中国とインドの統合秩序 －

日 時：2013年 10月 19日（土）15：00 ～17：00
場 所：立教大学 池袋キャンパス　14号館 D 301教室

南アジア史、南アジア環境史 、アジア文化交流史、アジア移民史の研究に基づき、インドと中国の生態系・歴史文明体系の特質を、中国の「万里長城」は巨大な壁であったという観点から比較し、仮説的に考察する。

講 師：重松 伸司（追手門学院大学 名誉教授）

1942 年、大阪府生れ。1966 年、京都大学文学部史学科東洋史学卒業、1971 年、京都大学文学研究科東洋史学修士課程修了。ケンブリッジ大学南アジア研究センター客員研究員、名古屋大学国際開発研究科教授などを経て、2007 年に追手門学院大学教授、2013 年に名誉教授。京都大学博士 (文学)。専門分野は南アジア史学、南アジア－東南アジア交流史。著書に『ムガル帝国誌／ヴィジャヤナガル王国誌』(1984 年、岩波書店)、『カーストの民、ヒンドゥーの習俗と儀礼』(1988 年、平凡社)、『マドラス物語、海道のインド文化誌』(1993 年、中央公論社)、『インドを知るための 50 章』(2003 年、編著、明石書店)『マラッカ海峡のコスモポリス、ペナン』(2012 年、大学教育出版) など。

申込・参加費 不要

お問合せ：　立教大学アジア地域研究所
電話：03-3985-2581 (月・火・木 10：00 ～ 17：00)　e-mail：ajiken@rikkyo.ac.jp

主　催：立教大学アジア地域研究所
私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「21 世紀海域学の創成」プロジェクト 公開シンポジウム

海域学の展望を拓く
ー過去から現在、そして未来へー

日　時：**2013 年 12 月 22 日（日）14:00 ～ 17:30**
場　所：**立教大学池袋キャンパス 11 号館　A203 教室**

かつて「南洋」と呼ばれた南シナ海・インド洋・太平洋については、従来の「陸」を中心とした世界認識に、「海」を軸に検討を加えるという動きがある。本研究所が進める研究プロジェクト「21 世紀海域学の創成」の企画として、今回は歴史学と政治学の側面から過去と現在とを結びつける。

●開会挨拶　14：00 ～ 14：05
豊田 由貴夫　（本学観光学部教授、本学図書館長）

●報　　告　14：05 ～ 16：00
上田 信　（本学文学部教授、「21 世紀海域学の創成」プロジェクト研究代表）
「21 世紀海域学の課題」

太田 淳（広島大学大学院准教授）
「貿易、戦争、移民：18–19 世紀マレー海域の海賊」

堀本 武功（京都大学大学院特任教授）
「現代インド洋を考える」

休　　憩 ……

●パネルディスカッション　16：15 ～ 17：25
太田 淳（広島大学大学院准教授）
堀本 武功（京都大学大学院特任教授）
弘末 雅士（本学文学部教授）
竹中 千春（本学法学部教授）
上田 信（本学文学部教授、「21 世紀海域学の創成」プロジェクト研究代表）

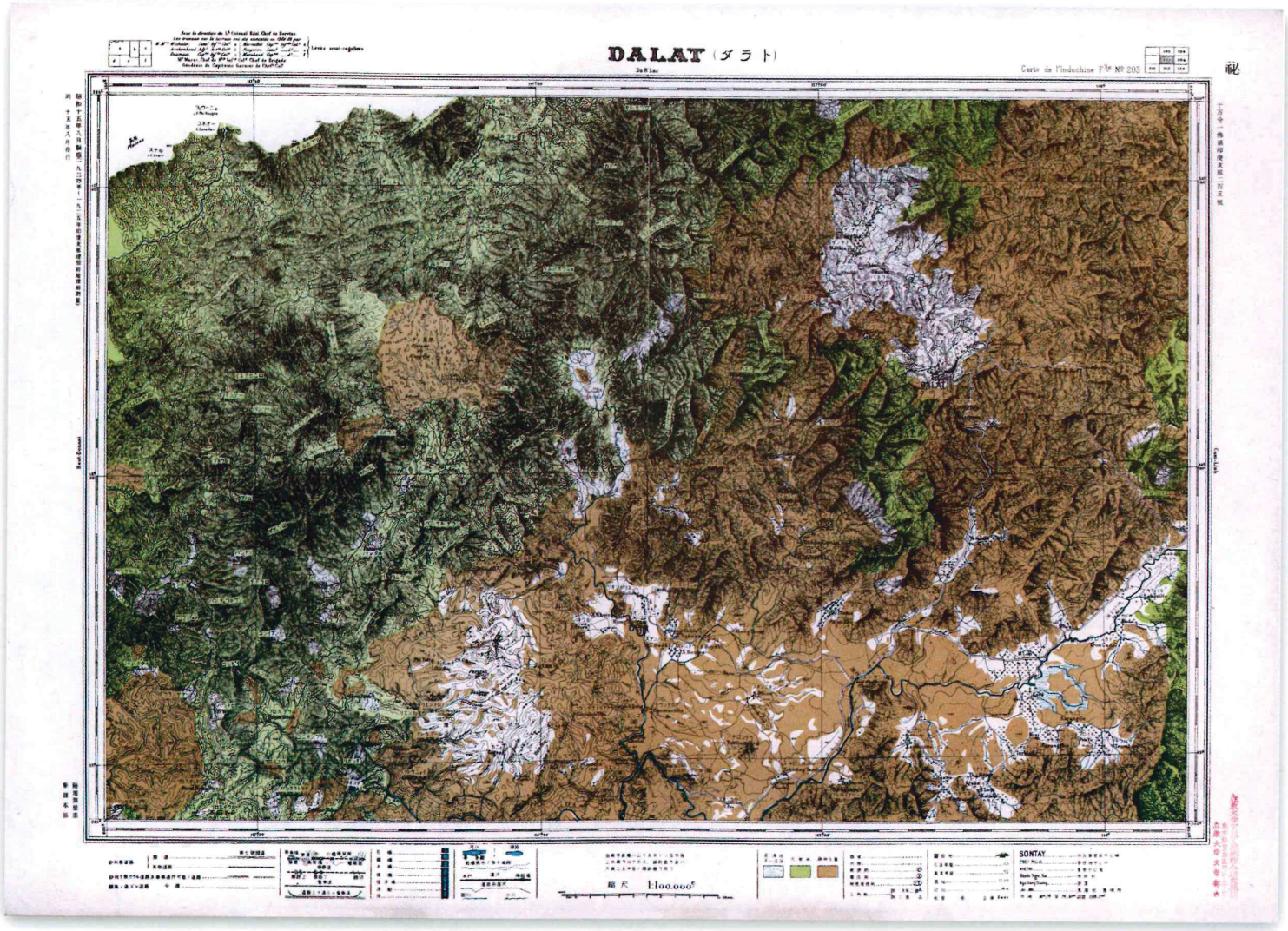
●閉会挨拶　17：25 ～ 17：30
上田 信（本学文学部教授、「21 世紀海域学の創成」プロジェクト研究代表）

申込・参加費 不要

お問合せ：　立教大学アジア地域研究所「21 世紀海域学の創成」プロジェクト担当 園川
TEL.FAX：03-3985-4492 ／ e-mail：kaiikigaku@rikkyo.ac.jp

Đà Lạt - Et la carte créa la ville...
Đà Lạt - Bản đồ sáng lập thành phố...
Đà Lạt - And the map created the city...
DALAT
LAC
Trung Bac
Camp Robert
Ecole des Enfants de Troupe
Cite Saint Benoit
Ecole Inter-Armes
Ferme Faraut
Pagode
Marché
Prison
Mairie
Eglise
Xuan An
Tân Lac
Đa Loi
(Trai Ham)
Lycée Yersin
Gare
Rectorat
Chapelle
Monastère des Benedictins
Hôpital Civil
Douanes et Régies
Résidence de l'Administrateur-Maire
Eaux et Forêts
Travaux Publics
Garde Montagnarde
Ile des Eaux
Terrain de Golf
Cercle Vietnamien
Cercle Sportif
Hôtel du Parc
Hôtel du Lac
Bureau de Garnison
Bureau de la Place
Ville du Gouver du Sud Viêt-Nam
Ville du Gouver du Centre Viêt-Nam
Résidence du Haut Commissaire
Tribunal
Service Vétérinaire
Sécurité du H.C Dalat
Gendarmerie
Banque Indo
Sœurs St Paul de Chartres
Ecole des Frères (d'Adran)
Cimetière Européen
Cimetière Vietnamien
Palais Impérial
Stade
Hameau
NHÀ XUẤT BẢN TRI THỨC
ÉCOLE FRANÇAISE D'EXTRÊME-ORIENT

別紙１０(１)



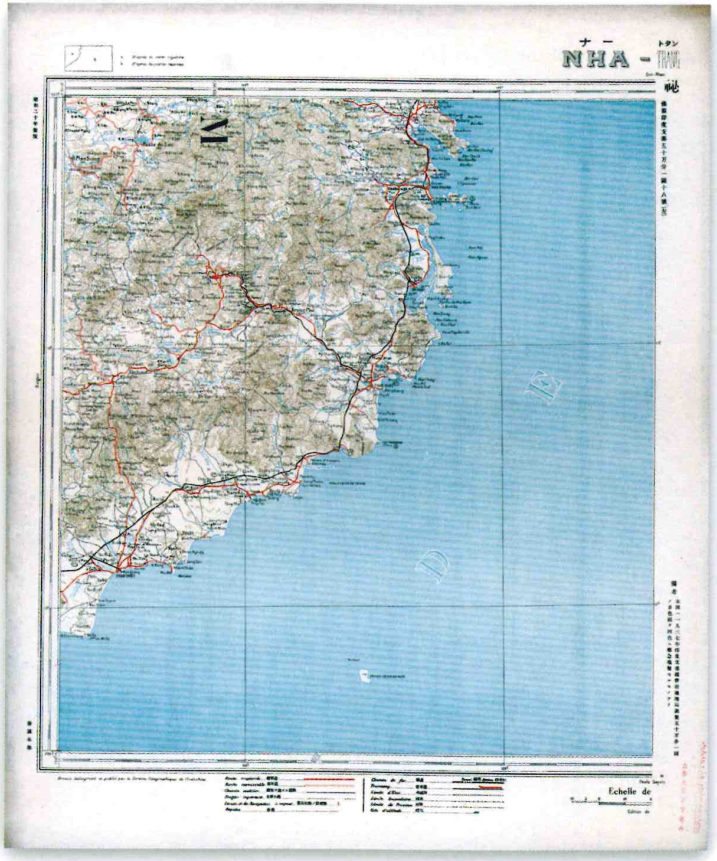
■ Cartes extérieures au territoire japonais réalisées par l'Armée japonaise : n°203 / Indochine française / 1:100000 / Đà Lạt / 1940 [CAAS]
Bản đồ của khu vực bên ngoài lãnh thổ Nhật Bản do Quân đội Nhật Bản trước đây lập: số 203 / Đông Dương thuộc Pháp / 1:100000 / Đà Lạt / 1940
Maps of the Areas outside the Japanese Territory Prepared by Former Japanese Army: No. 203 / French Indochina / 1:100000 / Đà Lạt / 1940

L'armée japonaise présente en Indochine à partir de 1941 porta une attention particulière à Đà Lạt et sa région. Comme le prouvent ces deux cartes ci-dessus et p. 149, pour eux également elles présentaient des avantages géostratégiques et apportaient le confort d'une station d'altitude.

Quân đội Nhật có mặt ở Đông Dương từ năm 1941 đã đặc biệt quan tâm đến Đà Lạt và vùng cao nguyên này. Bằng chứng là hai bản đồ ở trên và tr. 149, với họ chúng cũng cho thấy những lợi thế về địa lý chiến lược và mang đến sự tiện nghi của một trạm nghỉ mát trên cao.

The Japanese army that was present in Indochina from 1941 paid particular attention to Đà Lạt and its region. As these two maps demonstrate, above and p. 149, the area had geostrategic advantages and provided the comforts of a hill station.

別紙10(2)



■ Cartes extérieures au territoire japonais réalisées par l'Armée japonaise : n°18 gauche / Indochine française / 1:500000 / Nha-Trang / 1945 [CAAS]
Bản đồ của khu vực bên ngoài lãnh thổ Nhật Bản do Quân đội Nhật Bản trước đây lập: số 18 Trái / Đông Dương thuộc Pháp / 1:500000 / Nha Trang / 1945
Maps of the Areas outside the Japanese Territory Prepared by Former Japanese Army:n° 18 Left / French Indochina / 1:500000 / Nha-Trang / 1945

■ Carte routière de l'Indochine, 1950 [ANOM 2PL 835]
Bản đồ đường bộ Đông Dương, 1950
Road map of Indochina, 1950

Đà Lạt was a summer capital but became a permanent capital under Decoux. When the Đà Lạt Conference was organised in 1946, it became an illusory Indochinese federal capital that was better linked to the rest of the country. Whatever its political implications, the event reinforced international media coverage of the city. Then in 1949, Bảo Đại made it a point to settle there when he returned to reign over Viet Nam and the territories of the Southern Highlands, which was "crown domain" and came directly under his authority.

In November 1950, Trần Đình Quê became the first Vietnamese mayor of the city. One month later, the province of Lâm Đồng was created and communal areas consequently grew in size. The city became home to new military infrastructures (School for the children of Eurasian troops, École interarmes founded in 1950) and interprovincial and national organizations. The 1950s marked the transition of Đà Lạt from a colonial city to a Vietnamese municipality to which power was gradually transferred until the administration was again reorganised from 1955 under Ngô Đình Diệm's presidency.

During this period, efforts were focused on the completion of previous projects rather than on new constructions. The city could boast many prestigious buildings that were symbols of power, the most prestigious among these being the former palace of the Governor General (built between 1933 and 1937) where Decoux worked for half of the year, and the second villa of the Emperor of Annam under construction since 1938.

ISBN 4-9902638-1-2

立教大学所蔵

外邦図目録

GAIHOZU

Maps of the Areas outside the Japanese Territory Prepared by Former Japanese Army in the Possession of Rikkyo University

立教大学アジア地域研究所
Centre for Asian Area Studies, Rikkyo University
2014

立教大学所蔵 外邦図目録

2014 年 2 月 20 日発行
発行　立教大学アジア地域研究所
〒171-8501　豊島区西池袋 3-34-1

ISBN 4-9902638-1-2

棚	No.	地域名等	記号	図幅名	縮尺	緯度				経度				縦	横	大きさ	色	測量機関	測量時期	製版・印刷機関	製版時期	発行時期	枚数	備考
						緯	度	分	秒	経	度	分	秒											
1-2	1	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 1号	MA-LI-PO	1:100,000									78.5cm	54.5cm	中	3色（黒・青・緑）	インドシナ総督府地理局	1905～06年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	
1-2	2	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 2号	YÊN-MINH（イエン・ミン）	1:100,000									63cm	87.5cm	大	3色（黒・青・緑）	インドシナ総督府地理局	1904～05年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年9月製版	昭和15年9月発行	1	
1-2	3	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 5号	PHONG-THO	1:100,000									63.5cm	87.5cm	大	4色（黒・青・緑・茶）	インドシナ総督府地理局	1910～28年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	
1-2	4	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 6号	PA-KHA	1:100,000									63.5cm	87.5cm	大	3色（黒・青・緑）	インドシナ総督府地理局	1905～06年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	
1-2	5	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 7号	HÀ-GIANG	1:100,000									63cm	87.5cm	大	3色（黒・青・緑）	インドシナ総督府地理局	1905～06年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	
1-2	6	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 8号	BÀO-LAC	1:100,000									63.5cm	87.5cm	大	3色（黒・青・緑）	インドシナ総督府地理局	1904～13年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	
1-2	7	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 9号	CAO-BANG	1:100,000									68.5cm	85.5cm	大	3色（黒・青・緑）	インドシナ総督府地理局	1904～05年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	
1-2	8	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 10号	HA-LANG	1:100,000									79cm	54.5cm	中	3色（黒・青・緑）	インドシナ総督府地理局	1905～06年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	
1-2	9	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 14号	LAI-CHAU	1:100,000									63.5cm	87.5cm	大	4色（黒・青・緑・茶）	インドシナ総督府地理局	1926～28年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	
1-2	10	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 15号	LAO-KAY	1:100,000									63.5cm	87.5cm	大	3色（黒・青・緑）	インドシナ総督府地理局	1905～06年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	
1-2	11	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 16号	LUC-AN-CHAU	1:100,000									63.5cm	87.5cm	大	4色（黒・青・緑・茶）	インドシナ総督府地理局	1906～07年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	
1-2	12	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 17号	BAC-KAN	1:100,000									63.5cm	87.5cm	大	3色（黒・青・緑）	インドシナ総督府地理局	1906～07年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	
1-2	13	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 18号	THAT-KHE	1:100,000									63.5cm	87.5cm	大	3色（黒・青・緑）	インドシナ総督府地理局	1904～06年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	
1-2	14	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 19号	LOUNG-TCHEOU	1:100,000									72cm	47cm	中	5色（黒・青・緑・茶・赤）	インドシナ総督府地理局	1940年調製	参謀本部	昭和18年製版		1	
1-2	15	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 23号	LUAN-CHAU	1:100,000									63.5cm	87.5cm	大	3色（黒・青・緑）	インドシナ総督府地理局	1897年印刷	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	
1-2	16	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 24号	TU-LE	1:100,000									63.5cm	87.5cm	大	3色（黒・青・緑）	インドシナ総督府地理局	1901～08年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	
1-2	17	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 25号	YEN-BAY	1:100,000									63.5cm	87.5cm	大	4色（黒・青・緑・茶）	インドシナ総督府地理局	1907～08年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	
1-2	18	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 26号	TUYEN-QUANG	1:100,000									63.5cm	87.5cm	大	3色（黒・青・緑）	インドシナ総督府地理局	1906～07年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	
1-2	19	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 27号	PHO-BINH-GIA	1:100,000									63.5cm	87.5cm	大	3色（黒・青・緑）	インドシナ総督府地理局	1905～06年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	
1-2	20	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 28号	LANG-SON	1:100,000									63.5cm	87.5cm	大	4色（黒・青・緑・茶）	インドシナ総督府地理局	1903～29年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	
1-2	21	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 29号	BA-XA	1:100,000									63.5cm	87.5cm	大	3色（黒・青・緑）	インドシナ総督府地理局	1903～05年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	
1-2	22	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 35号	SON-LA	1:100,000									63.5cm	87.5cm	大	3色（黒・青・緑）	インドシナ総督府地理局	1908～09年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	
1-2	23	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 37号	VIET-TRI	1:100,000									63.5cm	87.5cm	大	3色（黒・青・緑）	インドシナ総督府地理局	1904～07年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	
1-2	24	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 38号	BAC-NINH	1:100,000									63cm	87.5cm	大	3色（黒・青・緑）	インドシナ総督府地理局	1902～35年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	
1-2	25	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 39号	AN-CHAU	1:100,000									63.5cm	85.5cm	大	3色（黒・青・緑）	インドシナ総督府地理局	1903～34年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	
1-2	26	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 40号	MON-CAY	1:100,000									66.5cm	95.5cm	大	4色（黒・青・緑・茶）	インドシナ総督府地理局	1903～30年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	
1-2	27	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 46号	MUONG-HET	1:100,000									79cm	54cm	中	4色（黒・青・緑・茶）			陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	
1-2	28	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 47号	VAN-YEN	1:100,000									63.5cm	88cm	大	3色（黒・青・緑）	インドシナ総督府地理局	1908～09年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	
1-2	29	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 49号	HANOI	1:100,000									63.5cm	87.5cm	大	3色（黒・青・緑）	インドシナ総督府地理局	1935年印刷	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	
1-2	30	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 50号	HAI-PHONG	1:100,000									63.5cm	87.5cm	大	4色（黒・青・緑・茶）	インドシナ総督府地理局	1903～25年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	
1-2	31	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 51号	KE-BAO	1:100,000									63.5cm	87.5cm	大	3色（黒・青・緑）	インドシナ総督府地理局	1902～03年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	1925年改訂版
1-2	32	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 59号	MAI-CHAU	1:100,000									63.5cm	88cm	大	2色（黒・青）	インドシナ総督府地理局	1897年印刷	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	
1-2	33	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 60号	PHU-NHO-QUAN（フー・ノー・クアン）	1:100,000									63.5cm	87.5cm	大	4色（黒・青・緑・茶）	インドシナ総督府地理局	1908～09年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	
1-2	34	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 61号	NAM-ĐINH	1:100,000									63cm	87.5cm	大	3色（黒・青・緑）	インドシナ総督府地理局	1910～23年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	
1-2	35	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 62号	HON-DAU	1:100,000									63.5cm	87.5cm	大	4色（黒・青・緑・茶）	インドシナ総督府地理局	1904～05年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	
1-2	36	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 71号	THANH-HOA	1:100,000									63.5cm	87.5cm	大	3色（黒・青・緑）	インドシナ総督府地理局	1903～10年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	
1-2	37	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 72号	PHAT-DIEM	1:100,000									63.5cm	87.5cm	大	3色（黒・青・緑）	インドシナ総督府地理局	1935年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	
1-2	38	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 76号	MUONG-SOUI	1:100,000									63cm	85cm	中	4色（黒・青・緑・茶）	インドシナ総督府地理局	1903～32年	参謀本部	昭和18年製版		1	1933年調製
1-2	39	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 77号	PLAINE DES JARRES	1:100,000									63cm	84.5cm	中	5色（黒・青・緑・茶・赤）	インドシナ総督府地理局	1903～14年	参謀本部	昭和18年製版		1	1927年調製

別紙１１（２）

立教大学アジア地域研究所

なじまあ

親しみ深きアジア
－Accessible Asia－

特集 インド洋

先人の知恵に学ぶ防災－インドネシア・シムル島およびニアス島の事例－／高藤洋子
海と民話と高台と－2004年インド洋津波を回避した海の民モーケンの事例－／鈴木佑記　タイ国タクワパー郡バーンナムケムのコミュニティ防災／西田昌之
わが国における津波伝承としての石碑を問い直す／前林清和　防災における文化の役割-国際防災協力と災害文化の醸成-<コメント>／五十嵐暁郎
外洋と内ウミをむすぶ－インドのバックウオーター社会－／重松伸司
モルディブ－インド洋の群島国家－／執行一利

川野美砂子　上田信　岩田晋典　豊田三佳　野中健一
藤川美代子　守田正志　栗田和明　大塚直樹

04
No.04 2014

別紙１２(２)

なじまぁ 04

No.04 2014 contents

親しみ深きアジア
－Accessible Asia－

特集／インド洋

「防災における文化の役割」－国際防災協力と災害文化の醸成－
先人の知恵に学ぶ防災－インドネシア・シムル島およびニアス島の事例－／高藤洋子 …… 4
海と民話と高台と－2004 年インド洋津波を回避した海の民モーケンの事例－／鈴木佑記 …… 6
タイ国タクワパー郡バーンナムケムのコミュニティ防災／西田昌之 …… 7
わが国における津波伝承としての石碑を問い直す／前林清和 …… 8
防災における文化の役割－国際防災協力と災害文化の醸成－＜コメント＞／五十嵐暁郎 …… 8
外洋と内ウミをむすぶ－インドのバックウオーター社会－／重松伸司 …… 9
モルディブ－インド洋の群島国家－／執行一利 …… 11

論考

ジャーラムと記憶の反乱－ケララ・イスラームの民衆運動 1836 ～ 1921 年－／川野美砂子 …… 13

外邦図コレクション

私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
21 世紀海域学の創成－「南洋」から南シナ海・インド洋・太平洋の現代的ビジョンへ－／上田信 …… 16

教壇から

オンデマンド授業（全学共通カリキュラム科目）－茶・虎そして人＜東ユーラシアの生態環境史＞－／上田信 …… 18
モノローグの向こう側を目指して－「多文化の世界」を担当した経験から－／岩田晋典 …… 19

アジ研的本棚 -Book review-

『エコツーリズムの民族誌－北タイ山地民カレンの生活世界』／豊田三佳 …… 20
『種子は万人のもの－在来作物を受け継ぐ人々』／野中健一 …… 21

研究員紹介

藤川美代子／守田正志 …… 22

フィールドから

タンザニア人の国外での活動－『アジアで出会ったアフリカ人』外伝－／栗田和明 …… 24

アジ研的・レストラン探訪

ネパール味家「スクティ」／大塚直樹 …… 27
編集後記／世界のおじさん・おばさん／細井尚子 …… 28

●「なじまぁ」とは
身近なアジア、親しみあるアジア、行きやすいアジア。「親しみ深い」というコンセプトを一言でいうと「なじみ」。「アジアになじむ」という意味をこめて、日本語で「なじまぁ」というタイトルを思いつきました。NAJIMI に ASIA をかけています。「～まぁ」のいい方で「アジアになじもうよ」という勧誘の意も表しています。

表紙写真／南インド・ケーララ州、マラバール沿岸コジコードで、買い手を待つダウ船／撮影：重松伸司
オカに上がった巨鯨をおもわせます。十数メートルの船上に竹製梯子をよじ上って見学、はるか西にアラビア海の荒波が輝いていました。
右ページ写真／インドネシア・北スマトラ州ニアス島／撮影：高藤洋子
2004 年 12 月に発生したスマトラ沖地震に伴う隆起により、珊瑚礁や砂浜が海面上に姿を現し形成された離水海岸。大自然の驚異に目を見張り畏敬の念を抱く。海岸線の変化により、サーフィンをする若者たちでにぎわっていた海岸も今は寄せてはひく波音だけが聞こえてくる。南国の陽光を受けて波はキラキラと光っていた。

外邦図コレクション④

私立大学
戦略的研究基盤
形成支援事業

21世紀海域学の創成

―「南洋」から南シナ海・インド洋・太平洋の現代的ビジョンへ―

上田 信

アジア地域研究所では、前身であるアジア地域総合研究所から引き継いだ外邦図の整理を、2010年に国土地理協会研究助成を得て整理を進め、その概要を明らかとしてきました。次のステップに進むため、2013年度の文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」（2013～15年度）に申請したところ、採択されるにいたりました。

本研究所が収蔵する外邦図は、東南アジアを中心に、かつて「南洋」と呼ばれた地域の地図のコレクションとなっています。その特色を活かし、研究プロジェクトのテーマを「海域学の創成」としました。

近年、アジアの海域に関する関心が高まっています。歴史学においては、桃木至朗編『海域アジア史研究入門』（岩波書店、2008年）をはじめ、多くの著作の刊行が相次いでいます。政治学の領域では、中国が掲げた「海洋強国」路線が契機となる海洋での政治的な緊張の高まりに応じ、論議が交わされています。

「海域」は1つの学界では扱いきれない多様な側面を持っています。学際的に海を観る視点は、しかし、まだ確立されているとはいえません。本プロジェクトは、外邦図という本研究所が有する資産に基づき、学際的、かつ未来志向の「海域学」の創成を目指します。

以下、申請のために作成した構想調書ならびにテーマ調書のなかから、本事業の概要を示す箇所を抜粋します。

☆☆☆

【研究目的】海域をいかに認識するか。どのようなビジョンを描き出すか。技術革新や社会変化にともなって、海域についての地理的・空間的な把握も変貌してきた。さらに、グローバリゼーションの加速する今日、島の領有権問題、大津波などの自然災害、開発や観光による環境破壊など、海域をめぐる課題が噴出している。本研究は、日本と深い繋がりのある南シナ海・インド洋・太平洋に焦点をあて、多角的かつ学際的な21世紀海域学の創成を目的とする。

南シナ海域、インド洋ならびに太平洋海域は、かつて「南洋」と呼ばれた。1940年代に日本が南進政策を進めるなかで、「南洋」の情報を収集する必要から、当該海域でヨーロッパ植民地宗主国が作製した地図をもとに、日本陸軍は精度の高い外邦図（日本国内の地図に対して国外の地図の総称）を作製した。この「南洋」外邦図は、当該地域の地図の歴史において、測量に基づく全体的な地図である点で、画期的な意味を持っている。

外邦図には、当該海域で開発が本格化する前の原風景が記されている。本研究プロジェクトは、外邦図を歴史的過去から連続する一断面として、1940年代から現在、そして未来へと展開する起点として位置づけ、本研究所の所員・特任研究員の専攻を活かして学際的研究を進め、さらに学外の研究者を迎え、21世紀を見据えた海域学の創成を目指すものである。

図1／立教大学外邦図インデックスマップ

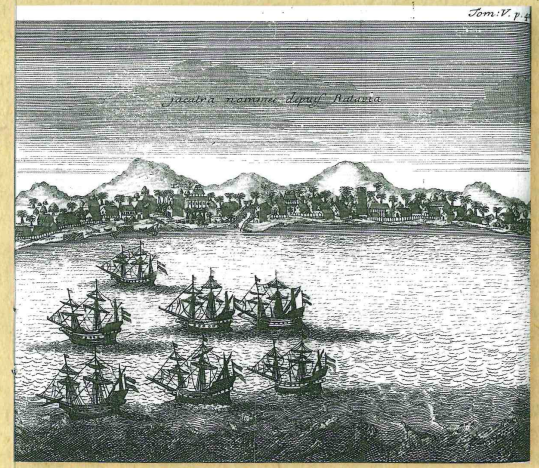


図2／ジャカトラ（17世紀初頭）　出典：Recueil des voyages qui ont servi à l'etablissement et aux progrèz de la Compagnie des Indes orientales, formée dans les Provinces-Unies des Païs-Bas. (1725)

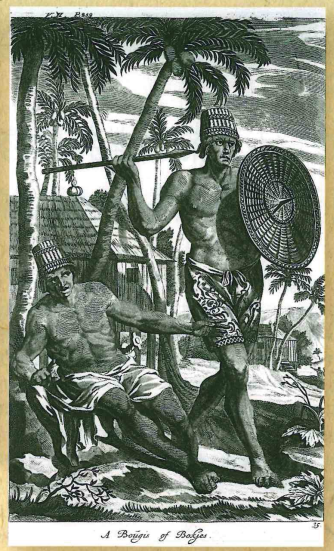


図3／ブギス人（1660年代後半）出典：A collection of voyages and travels. (1744)

【意義】第一の意義は、体系的な地理情報の収集と解析である。立教大学所蔵の「南洋」外邦図を基礎に、膨大な歴史的情報を地理情報システム（GIS）によって結びつけ、デジタル画像や解析したデータを公開する。

第二の意義は、海域認識やそのビジョンを捉えるための知の枠組みを開拓することである。アジア研究に携わる専門家を核に、海上交易の歴史、海上民・沿海民の文化、海洋の権力政治、自然と人間の交差する観光という4つのテーマを掘り下げ、それらの学際的な比較と総合の中から方法論としての海域学を構想する。

【研究内容】「南洋」外邦図を一層のプラットフォームとして、歴史、文化、政治、観光という4つの観点からチームを編成して研究を進める。各チームの研究内容は以下の通りである。1. 統括：外邦図のデジタル化、データベース化と共に情報の解析を行う。また、チーム間の連携を図り、理論的・実証的な知見を学際的に統合した海域学の創設を試みる。2. 歴史学チーム：歴史的過去から外邦図にいたる景観の変化などを跡づけながら研究を進める。3. 文化学チーム：各海域の文学や民族学などの知見を集約する。4. 政治学チーム：海洋の国際政治・安全保障などの分析を進め、過去の地図と現在の海域図を比較し検証する。5. 観光学チーム：海域における客船の航路と観光地との関係などを分析するとともに、観光案内・地図コレクションの構築を目指す。

チーム横断的・学際的なテーマとして、①海域秩序の形成と変容、②海域をめぐる人の移動、③津波などの自然災害、④人の安全保障という、4つの柱を立てる。

また、グループ全体を南シナ海、インド洋、太平洋の各ユニットに編成する。研究分野を単位とするチームと海域を単位とするユニットが有機的に連携し、海域学の創成を目指す。

【期待される成果】①アジア地域研究所が所蔵する「南洋」外邦図という貴重なコレクションをネット上に公開し、学内外の研究者の利用に資する。

②当該海域に関する歴史・民族学文献、海事関係文献、観光案内など多様な情報を、「南洋」外邦図をプラットフォームとしてGISにより結びつけ、海域学を創成する研究環境を整えることができる。

③当該海域における調査を通して、現地研究者との国際学術交流を推進させることができる。

④大学院生を本研究プロジェクトに参画させ、海域学の学際的視座を獲得させることができ、本分野の若手研究者育成に貢献することができる。

⑤本プロジェクトで得られた知見は、学術論文、公開講演会、国際シンポジウム、学術レポジトリーなどの媒介を経て公開していく。

【研究メンバー】統括：上田信[*1]、大塚直樹[*2]、李善愛（宮崎公立大学教授）。歴史学チーム：弘末雅士[*1]、吉原和男[*2]、重松伸司（追手門学院大学名誉教授）、太田淳（広島大学大学院准教授）。政治学チーム：竹中千春[*1]、堀本武功（京都大学大学院特任教授）、竹内幸史（岐阜女子大学客員教授）、中溝和弥（京都大学大学院准教授）。文化学チーム：豊田由貴夫[*1]、栗田和明[*1]、舛谷鋭[*1]、高藤洋子[*2]。観光学チーム：大橋健一[*1]、豊田三佳[*1]。

（[*1]＝本研究所所員、[*2]＝本研究所特任研究員）

上田 信（うえだ・まこと）

立教大学文学部教授
東京大学大学院人文科学研究科（東洋史学専攻修士課程）修了。東京大学東洋文化研究所助手を経て立教大学文学部。現在は同教授。アジア地域研究所所長。専門は中国社会史・生態環境史。

別紙12(3)

アジア地域研究所　私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「21 世紀海域学の創成」プロジェクト

本学アジア地域研究所は東南アジアを中心とする外邦図ならびに水路図を数多く所蔵している。これらの地図は1940 年代に日本陸軍が当時の旧植民地宗主国が作成した地図を編纂したり、新たに作成したりしたものである。2013 年度から 3 年間にわたり、アジア地域研究所は私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「21 世紀海域学の創成」プロジェクトを進め、外邦図については、その目録を完成させた。今年度は外邦図の活用を進めるとともに、水路図について整理を行う予定にしている。これらの作業に先立ち、それぞれの研究の第一人者である小林氏、今井氏に、成立の過程と現時点での整理状況、ならびにその活用の方法などについて、ご講演いただく。

外邦図と水路図
－成立の過程と活用の可能性－

2014 年 5 月 17 日（土）13：30 ～ 17：30
立教大学池袋キャンパス 12 号館地下第 1・2 会議室

●小林 茂（こばやし しげる）氏
1948 年名古屋市生まれ、1974 年京都大学文学研究科博士課程中退、2003 年博士（文学）（京都大学）、2013 年大阪大学名誉教授、現在大阪観光大学教授。外邦図の研究を率先して進め、著書に『近代日本の地図作製とアジア太平洋地域―「外邦図」へのアプローチ―』大阪大学出版会 2009 年（編者）（日本地理学会優秀賞受賞、2010 年）『外邦図―帝国日本のアジア地図―』中央公論新社（中公新書 2119）2011 年（人文地理学会賞［一般図書部門］受賞 2012 年）などがある。

●今井 健三（いまい けんぞう）氏
1942 年生まれ、1967 年 3 月日本大学文理学部地理学科卒業、海上保安庁海洋情報部（旧水路部）に勤務。海図作製及び海図作製技術者教育に従事。海上保安庁退職後、財団法人日本水路協会に勤務。水路技術者養成等事業に従事。現在は一般財団法人日本水路協会技術アドバイザー。著書に「日本海図誕生に果たした英国測量艦の技術支援―「鹽飽諸島實測原圖」の作製をめぐって―」2011 年 3 月　大阪大学大学院文学研究科人文地理学教室外邦図研究グループ　外邦図研究ニューズレター 8 号、「英国海図を模範として発展した日本海図―明治初期の日・英海図の表現法を比較して―」2013 年日本地図学会機関誌『地図』51 巻 4 号などがある。

立教大学文学部公開講演会

ヨーロッパ、海域、そしてユーラシア：近代以前の世界

◎佐藤　彰一氏
（日本学士院会員・名古屋大学名誉教授）
西暦一千年紀におけるユーラシア・インド洋貿易

◎深沢　克己氏
（東京大学大学院人文社会系研究科教授）
近世ヨーロッパと地中海―南フランスの作業場から

司会　上田　信
（立教大学文学部教授・アジア地域研究所所長）

2014年5月30日(金)
18:20~20:30
立教大学池袋キャンパス4号館4階(4402)
申込不要・入場無料

Hans Sporer, Mappa mundi, c. 1480

主催：立教大学文学部史学科
共催：私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「21世紀海域学の創成」
問合せ先：学部事務1課(文学部担当)TEL:03-3985-2479
小澤　実(文学部准教授)：m-ozawa@rikkyo.ac.jp

立教大学アジア地域研究所 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「21 世紀海域学の創成」プロジェクト 公開シンポジウム

南洋と沖縄

かつて日本の委任統治領となった南洋の文化を考えるさいに、沖縄との人と文化の交流を考察することが不可欠である。海域学の視点から、漁業と芸能の2つの側面から考察する。

日時：2014年　6月21日（土）13：00～17：00

場所：立教大学池袋キャンパス　8号館　8202教室　＜申込・参加費 不要＞

13:00 ～	＊開会挨拶＊	**上田 信**（本学文学部教授　アジア地域研究所 所長）
13:05 ～	＊基調報告＊	「南洋とは何か」 **豊田 由貴夫**（本学観光学部教授　アジア地域研究所 副所長）
13:25 ～	＊事例報告＊	「かつお節から見た沖縄と南洋の出会い」 **藤林 泰**（元埼玉大学教授）
休憩（10 分）		
14:45 ～	＊事例報告＊	「もうひとつの沖縄音楽の足跡―南洋における音楽交流」 **小西 潤子**（沖縄芸術大学教授 ）
15:55 ～	＊対　　談＊	「沖縄芝居の南洋巡業」 **瀬名波 孝子**（沖縄芝居演者）**伊良波 さゆき**（沖縄俳優協会会員） **細井 尚子**（本学異文化コミュニケーション学部教授　アジア地域研究所 所員）
16:55 ～	＊閉会挨拶＊	**細井 尚子**（本学異文化コミュニケーション学部教授　アジア地域研究所 所員）

立教大学アジア地域研究所「21 世紀海域学の創成」プロジェクト室
TEL/FAX：03-3985-4492（月・木）　E-mail：kaiikigaku@rikkyo.ac.jp

立教大学アジア地域研究所　私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「21 世紀海域学の創成」プロジェクト 公開講演会

沖縄芝居に見る大衆娯楽の「近代」
―瀬名波孝子の芝居人生―

瀬名波孝子氏が若い頃から携わってきた沖縄の芝居の変遷を、ご自身の経験を基に実演を交えながら解説していただく。このなかで、特に南洋帰りの洋舞指導者との交流などについて取り上げる。

日時：2014 年 6 月 22 日（日）10:00 ～ 11:40
場所：立教大学 池袋キャンパス 太刀川記念館 3 階多目的ホール

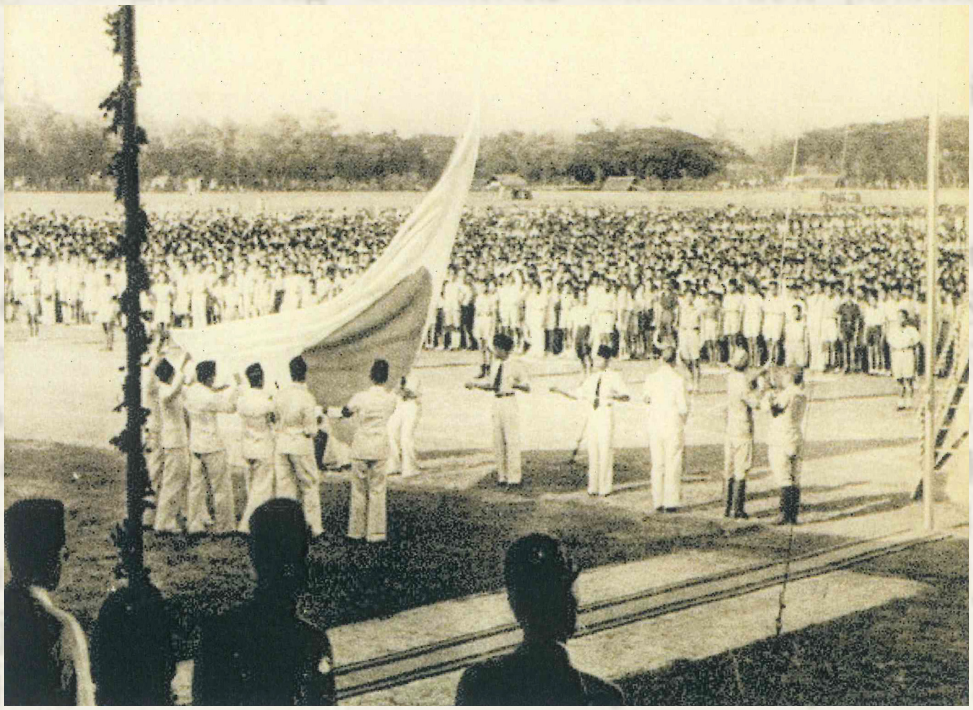
瀬名波 孝子（せなみ たかこ）氏
1933 年生まれ。3 歳から琉球舞踊を習い、9 歳で沖縄芝居の劇団に入る。以降、松劇団、梅劇団、沖縄座など主要な劇団を経て、みつわ坐を設立。沖縄芝居の衰退期に劇団経営の経験を得るなど、一演者としてのみならず、沖縄芝居の興行にも詳しい。1984 年、第 18 回沖縄タイムス芸術選賞「演劇の部」奨励賞受賞。1999 年、沖縄県指定無形文化財琉球歌劇保持者。2005 年に第 39 回沖縄タイムス芸術選賞「演劇の部」大賞受賞。

伊良波 さゆき（いらは さゆき）氏
沖縄芝居演者･沖縄民謡歌手･三線奏者、沖縄芝居の舞台のほか、映画「友の碑―白梅学徒の沖縄戦」（2003 年）出演。祖父は戦前に伊良波一座を結成して南洋を巡業し、琉球歌劇の名作を遺した伊良波尹吉氏。

＜申込・参加費　不要＞

立教大学アジア地域研究所「21 世紀海域学の創成」プロジェクト室
TEL/FAX：03-3985-4492（月・木）　E-mail：kaiikigaku@rikkyo.ac.jp

別紙１７



立教大学アジア地域研究所 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「21 世紀海域学の創成」プロジェクト 公開シンポジウム

日本占領下の南洋

21 世紀海域学の創成を目指すとき、アジア太平洋戦争の期間に日本が南洋（東南アジア島嶼部ならびに太平洋諸島）を支配した事実を正確に理解する必要がある。日本占領期のマラヤを研究しているクラトスカ氏ならびに、日本占領期の東南アジアの情勢を、政治・社会・文化・教育という多角的な視点から検討している講師に登壇いただき、総合的に検討する。

日時：2014年 11月 16日（日）13：30～17：00

場所：立教大学池袋キャンパス　太刀川記念館3階多目的ホール

＜申込・参加費 不要＞　※同時通訳あり

13:30 ～　＊開会挨拶＊上田 信（本学文学部教授　アジア地域研究所 所長）

13:35 ～　＊報告＊　**「日本占領下のマラヤ」**
KRATOSKA, Paul（クラトスカ、ポール）氏（国立シンガポール大学教授、本学招聘研究員）

14:15 ～　＊報告＊　**「日本のインドネシア占領を考える」**
後藤 乾一氏（早稲田大学名誉教授）

14:55 ～　休憩（10 分）

15:05 ～　＊報告＊　**「日本占領下の東南アジアにおける日本語教育―マラヤ、北ボルネオを中心に―」**
松永 典子氏（九州大学教授）

15:45 ～　＊報告＊　**「日本占領下インドネシアで語られた「大東亜共栄圏文化」の理念**
― 日刊紙「アシア・ラヤ」上の日本徴用文化人と現地作家の論説を中心に―」
姫本 由美子（アジア地域研究所特任研究員）

16:30 ～　＊ﾊﾟﾈﾙﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ＊
進行：豊田 三佳（本学観光学部准教授　アジア地域研究所 所員）

16:55 ～　＊閉会挨拶＊弘末 雅士（本学文学部教授　アジア地域研究所 所員）

立教大学アジア地域研究所「21 世紀海域学の創成」プロジェクト室
TEL/FAX：03-3985-4492（月・木）　E-mail：kaiikigaku@rikkyo.ac.jp

立教大学アジア地域研究所

なじまあ

親しみ深きアジア
－Accessible Asia－

特集 アジアにおけるキリスト教

ベトナム人司祭チャン・ロックとファットジェム大聖堂－ベトナムのキリスト教と木造教会堂建築－／山田幸正
台湾と中国のカトリック教会のいま／山岡三治
パプアニューギニアのキリスト教／豊田由貴夫
日本ホーリネス教会における進化論受容と戦責告白問題／ゾンターク・ミラ

05
No.05 2015

倉田明子　トゥルグト・サネル　大橋健一　倉田徹　豊田三佳　山口元樹
クリスチャン・ダニエルス　高原明生　福島康博　山下王世　権赫麟　高藤洋子

別紙１８(２)

なじまぁ 05

No.05 2015 contents

親しみ深きアジア
－Accessible Asia－

特集／アジアにおけるキリスト教

ベトナム人司祭チャン・ロックとファットジェム大聖堂－ベトナムのキリスト教と木造教会堂建築－／山田幸正 …… 4
台湾と中国のカトリック教会のいま／山岡三治 …… 6
パプアニューギニアのキリスト教／豊田由貴夫 …… 8
日本ホーリネス教会における進化論受容と戦責告白問題／ゾンターク・ミラ …… 10

コラム

ギュツラフと海域アジア／倉田明子 …… 12

論考

後期オスマン建築における西洋認識／トゥルグト・サネル …… 13

外邦図コレクション

外邦図をめぐるフランス極東学院（EFEO）との学術協力／大橋健一 …… 16

教壇から

アジアを、政治を、もっと身近に感じよう－アジア政治論－／倉田徹 …… 18
持続可能な観光開発をめざして－アジア太平洋観光論－／豊田三佳 …… 19

アジ研的本棚 -Book review-

弘末雅士編『越境者の世界史―奴隷・移住者・混血者』／山口元樹 …… 20
Masatoshi A. Konish 著『Hāth-Kāghaz』／クリスチャン・ダニエルス …… 21

研究員紹介

中国の発展、そして成長した中国と世界－分配の政治経済学と新興大国の国際関係／高原明生 …… 22
日本と中東・東南アジアを結ぶハラール・ビジネス研究　新しい「おもてなし」と顧客満足／福島康博 …… 23

フィールドから

信州岡谷とキリスト教－製糸工女の記憶とともに－／山下王世 …… 24

アジ研的・レストラン探訪

インド料理屋スリヤ／権赫麟 …… 27
編集後記／大橋健一　山下王世 …… 28
世界のおじさん・おばさん／高藤洋子 …… 28

●「なじまぁ」とは

身近なアジア、親しみあるアジア、行きやすいアジア。「親しみ深い」というコンセプトを一言でいうと「なじみ」。「アジアになじむ」という意味をこめて、日本語で「なじまぁ」というタイトルを思いつきました。NAJIMI に ASIA をかけています。「～まぁ」のいい方で「アジアになじもうよ」という勧誘の意も表しています。

表紙写真／ファットジェム大聖堂正面ファサード／撮影：山田幸正

ファットジェム大聖堂（1891 年献堂）の正面ファサードは奥行 8.8m におよぶ堂々とした石造建造物で、五連トンネルヴォールトの通廊を基壇とし、軒反りを強調した 2 層の楼閣が載り、中国建築を意識した特異な意匠が採用されている。

右ページ写真／池に立つ聖像とファットジェム大聖堂鐘楼門／撮影：山田幸正

大聖堂に至る軸線上には人口池が設けられ、十字に両腕を広げたキリスト像がその中の島に立つ。三連トンネルヴォールトの門の上には、聖堂正面と同様の 2 層楼閣が聳え、そのなかに鐘が収められている。この鐘楼門と大聖堂の間の中庭にはチャン・ロック神父の墓が設けられている。

外邦図コレクション⑤

外邦図をめぐるフランス極東学院（EFEO）との学術協力

大橋健一

展覧会「Đà Lạt- Et la carte créa la ville…」

2013年12月9日から15日、ベトナム中部の高原都市ダラットにおいて「Đà Lạt- Et la carte créa la ville …」と題する展覧会が開催された。この展覧会は、仏越国交樹立40周年記念行事「ベトナムにおけるフランス年2013・フランスにおけるベトナム年2014」の一環として、またダラット120周年の記念行事の一環として、フランス極東学院、ベトナム国立公文書館、ラムドン省博物館によって企画、開催されたものである。

同展覧会は、フランスによる植民地体制下で行われた1880年代のベトナム中部高原への探検踏査、そしてダラットが「発見」された1893年以降、それぞれの時代に作成された地図を中心とする史料を通してダラットの都市発展の歴史的過程をたどりつつ、ダラットの都市文化遺産の保存と都市開発の将来へ向けた課題を提示するという内容となっており、ベトナムはもとより旧宗主国のフランス、さらにはスイス、そして日本からも関連史料が出展された。

周知の通り、日本は第二次大戦中に「仏印進駐」という形で仏領インドシナに関与し、その過程で仏領インドシナ各地の外邦図も作成された。ただし、同地域の外邦図のほとんどは、現地のフランス植民地機関が作成した既存のフランス語版地図を接収した上で、主要地名や凡例を日本語に改めた日・仏語併記の地図という特徴をもっている。同展に出展された外邦図「DALAT（ダラト）十万分一佛領印度支那二百三號」もまた同様の特徴をもつものであった。

フランス植民地都市としてのダラット

ダラットは、ベトナム中部高原の標高約1500メートルに位置するいわゆるヒル・ステーションである。ヒル・ステーションとは、東南アジアからアフリカにかけて西洋の旧植民地の山間部に広く分布した避暑空間であり、また、植民地体制下における軍事・戦略上の重要性や健康、保健衛生、余暇などの諸機能を担った空間である。植民地の山中にありながらそこは非西洋における閉ざされた西洋的景観を形成しており、また、西洋的生活文化が再生産される場であった。イギリスは、インドを中心に多くのヒル・ステーションをその植民地に建設し、代表的なヒル・ステーションとしてシムラーやダージリンの名がすぐにあがるほどであるが、フランスもまたインドシナ支配の過程においていくつかのヒル・ステーションを建設したのであった。

ダラットは、1893年、フランスによるベトナムの植民地支配下に行われた探検踏査の過程で「発見」され、フランス植民地総督は、1899年にダラットにおけるヒル・ステーションの建設を決定した。さらに、1916年にはダラットの本格的な観光開発が決定され、またその後、フランス領インドシナ連邦の首都をこの地に建設する計画も立案された。これらの意味においてダラットは、ベトナムにおけるフランス植民地主義のひとつの結晶とも言いうる特殊な意味を付与された空間として成立した都市であったといえよう。

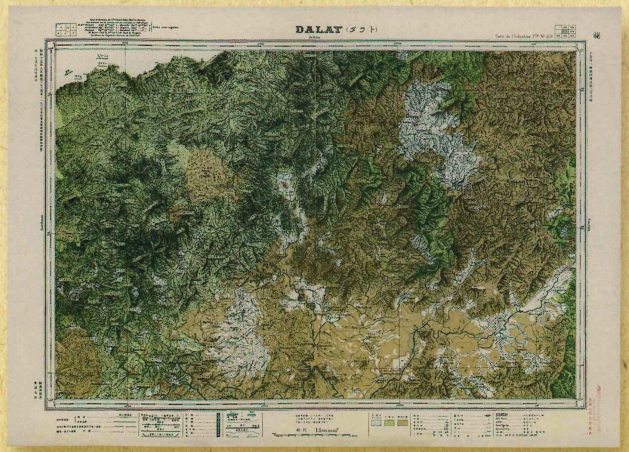


図1／展覧会「Đà Lạt-Et la carte créa la ville…」に出展された外邦図「DALAT（ダラト）十万分一佛領印度支那二百三號」（立教大学アジア地域研究所所蔵）

写真1／展覧会「Đà Lạt-Et la carte créa la ville…」会場でメディアからのインタビューに答える駐越フランス大使

写真2／ダラットの風景

脱植民地化後のベトナムにおいてもダラットのもつこのような特殊な意味は文脈を変えながらも持続し、今日に至っている。フランス植民地時代の町並みや建築物はもとより、植民地時代にフランスから持ち込まれた高原野菜や果物、ワインやコーヒーなどの生活文化、そして人々の間で共有されるこの都市のイメージに至るまで、ベトナムの中においてダラットは今日においてもなお「フランス」を強く喚起させる特殊な場所であり続けている。そして、これは現在のダラットで進む観光開発において極めて重要な資源ともなっている。

フランス極東学院（EFEO）からの協力依頼

さて、展覧会「Đà Lạt- Et la carte créa la ville …」に出展された外邦図「DALAT（ダラト）十万分一佛領印度支那二百三號」は、実は立教大学アジア地域研究所所蔵の外邦図コレクションの中から出展されたものであった。

協力依頼の発端は、フランス極東学院ホーチミン市事務所でのPascal Bourdeaux代表と筆者との何気ない会話にあった。筆者は、上述したようなダラットという都市のもつ特殊な意味に関心をもつようになり、15年ほど前より断続的にダラットに関する調査研究を続けてきたが、2年ほど前にダラットへの調査に向かう途上に訪問したホーチミン市で、開設されて間もないフランス極東学院ホーチミン市事務所へ立ち寄り、Bourdeaux代表とお互いの研究上の関心についていろいろと語り合う中で、代表は筆者がダラットの調査研究をしていることに強い関心を示され、筆者は当時企画段階にあったダラットに関する展覧会の話を偶然にも聞くことになった。その後、ホーチミン市を訪れる機会があるごとにBourdeaux代表を訪ねるようになったが、何回目かに彼を訪問した際にダラットに関する展覧会について相談を持ちかけられた。それは、日本の進駐期に関して何か興味深い史料や企画はないだろうかというものであった。当時、アジア地域研究所では上田所長を代表者として「21世紀海域学の創成」プロジェクトが新たに発足し、研究所所蔵の外邦図の整理とデジタルアーカイブ化がまさに進行し始めたところであった。このことをBourdeaux代表に話すと、初めて聞く外邦図というものの存在に驚かれると同時に、地図を中心にダラットの都市発展を跡づけるという企画の性格上、外邦図はこの展覧会にまさにうってつけの史料であり、ぜひとも展示史料に加えたいとのことであった。こうして筆者が仲介をする形で上田所長からもフランス極東学院への学術協力として外邦図を提供することにご理解をいただき、アジア地域研究所所蔵の外邦図はダラットで展示されることになった。

外邦図の国際共同利用へ向けて

今回のフランス極東学院との学術協力は、個人的な研究上のつながりと幾重もの偶然が重なった結果実現したが、今後は外邦図というものの存在を国際的に発信することも含めて、外邦図の国際的な共同利用へ向けた体制の整備が求められるだろう。今回の協力は、その重要性を確認するよい機会であったといえよう。

大橋　健一（おおはし・けんいち）

立教大学観光学部交流文化学科教授
立教大学社会学部卒業。同大学院社会学研究科博士課程前期課程修了。香港大学アジア研究センター、兵庫教育大学などを経て現職。フランス国立科学研究センター都市人類学研究所、ベトナム国家大学ハノイ社会人文科学大学などの客員研究員を歴任。主著に『都市エスニシティの社会学』『香港社会の人類学』『アジア都市文化学の可能性』『移動するアジア』（以上共著）など。

立教大学アジア地域研究所 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「21 世紀海域学の創成」プロジェクト 公開シンポジウム

近世から近現代にいたる海域世界の社会統合
―外来系住民と現地社会

東西海洋交通の要衝であったインド洋、南・東シナ海、太平洋には、来航者を受け入れ外部世界への窓口となる港市が、各地で発展を遂げた。港市は、諸海域を結びつけ広域ネットワークを形成するとともに、地域の結節点となり地元社会の構築にも寄与した。本シンポジウムでは、これらの港市が外来系住民や地元の人々を抱え込みながら、いかなる社会統合を展開したのか、その歴史的過程を考察し広域秩序や海域秩序さらに地域秩序の構築のされ方を検討する。合わせて、21 世紀における港市の果たす役割についても展望する。

日時：2015年 4月 25日（土）10：30～17：00
場所：立教大学池袋キャンパス　太刀川記念館3階多目的ホール

入場無料
申込不要

＜午前の部 10:30 ～ 12:30＞

開会挨拶　弘末雅士（本学文学部教授）

報告 1　17 ～ 18 世紀インドにおけるアルメニア海洋商人と英国東インド会社：「1688 年協約」をめぐって
重松伸司（追手門学院大学オーストラリア・アジア研究所 所長）

報告 2　西カリマンタンの移民と社会変容
太田　淳（広島大学大学院文学研究科准教授）

報告 3　東インドにおけるヨーロッパ系住民と現地人妻妾：植民地体制下の婚姻をめぐって
弘末雅士（本学文学部教授）

＜午後の部 13:30 ～ 17:00＞

報告 4　東インドにおけるアラブ系住民と社会統合：インドネシア・アラブ人協会によるイスラーム主義とナショナリズムの融合
山口元樹（日本学術振興会特別研究員 PD）

報告 5　オセアニアにおける Beachcombers
豊田由貴夫（本学観光学部教授）

報告 6　タイとマレーシアにおける華人と宗親総会
吉原和男（アジア地域研究所特任研究員）

報告 7　東南アジアにおけるアフリカ系移住者
栗田和明（本学文学部教授）

ﾊﾟﾈﾙﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ　ﾓﾃﾞﾚｰﾀｰ 竹中千春（本学法学部教授）

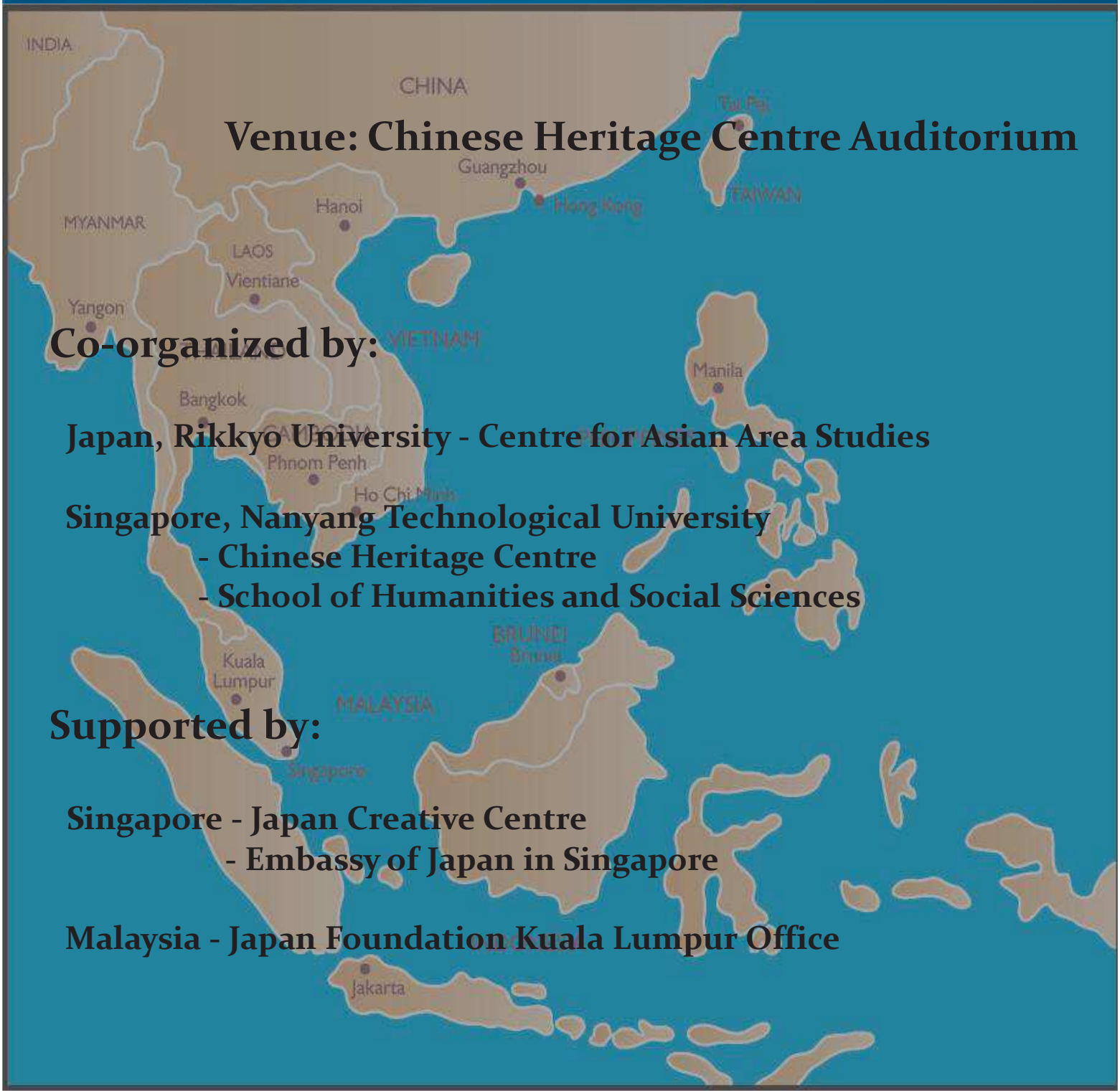
閉会挨拶　上田　信（本学文学部教授・アジア地域研究所 所長）

立教大学アジア地域研究所「21 世紀海域学の創成」プロジェクト室
Tel/Fax：03-3985-4492（月・火・木）email：kaiikigaku@rikkyo.ac.jp

別紙２０

International Workshop

The Maritime Order and Social Integration in Southeast Asia



Venue: Chinese Heritage Centre Auditorium

Co-organized by:

Japan, Rikkyo University - Centre for Asian Area Studies

Singapore, Nanyang Technological University
- Chinese Heritage Centre
- School of Humanities and Social Sciences

Supported by:

Singapore - Japan Creative Centre
- Embassy of Japan in Singapore

Malaysia - Japan Foundation Kuala Lumpur Office

別紙２１

立教大学アジア地域研究所 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「21 世紀海域学の創成」プロジェクト 公開シンポジウム

貿易陶磁と文献史料から東アジア・東南アジアの歴史を考える

―16世紀・17世紀を中心とした海域におけるヒト・モノの流れ

東アジアや東南アジア地域であらゆる形の交易によってヒト・モノが循環していた 16 世紀 17 世紀のアジアの海の世界を舞台に、東南アジアと中国南部、そして日本を含むアジア世界の姿を貿易陶磁と歴史史料の双方の研究者達からそれぞれの視点で見ていくことで、マルチ・ディシプリナリーな歴史の構築を図ることを目的とする。

■午前の部（10:00 ～ 12:10）

趣旨説明　弘末雅士（本学文学部教授、アジア地域研究所所員）

報告 1　坂井隆（国立臺灣大学芸術史研究所 副教授）

「台湾出土の中国陶磁器からみる中国南部と東南アジアとの交易関係」

報告 2　金沢陽（出光美術館 学芸員）

「東シナ海における 16 ～ 17 世紀における沈没船と中国陶磁器」

■午後の部（13:00 ～ 17:00）

報告 3　宮田絵津子（立教大学アジア地域研究所 特任研究員）

「マカオ出土の中国陶磁：マカオ - マニラ - アカプルコへのつながり」

報告 4　久礼克季（立教大学アジア地域研究所 特任研究員）

「台湾鄭氏 - 中国南部 - 東南アジアを結ぶ諸条件とオランダ東インド会社」

報告 5　伊川健二（本学兼任講師、成城大学非常勤講師）

「ルソン壺交易と日比通交」

総合討論　ﾓﾃﾞﾚｰﾀｰ：弘末雅士（本学文学部教授、アジア地域研究所所員）

閉会の挨拶　上田信（本学文学部教授、アジア地域研究所所長）

日時：2015年 11月 14日（土）10：00～17：00

場所：立教大学池袋キャンパス　太刀川記念館3階多目的ホール

入場無料
申込不要

立教大学アジア地域研究所「21 世紀海域学の創成」プロジェクト室
Tel/Fax：03-3985-4492（月・火・木）email：kaiikigaku@rikkyo.ac.jp

国際シンポジウム

ASIA center JAPAN FOUNDATION

21世紀アジアをめぐる海の国際政治

– インド洋・ベンガル湾・南シナ海・東シナ海・太平洋 –

2015年12月12日（土）10:00-18:00

立教大学池袋キャンパス 14号館5階 D501

（http://www.rikkyo.ac.jp/access/）

アジアの国際政治は激しく変動している。科学技術や市場経済のグローバルな展開の中で、国民国家や国際秩序のあり方も変容し、自然環境の持つ意味も変化し続けている。中国の台頭、インドの成長、ASEANの進化、東アジアの国際的な緊張などを考えながら、このシンポジウムでは「海」に焦点を置き、21世紀のアジアにおける国際関係を分析し、展望する。

＊日本語・英語同時通訳あり＊

◆プログラム◆

10:00-10:05　開会の言葉　**上田 信**（立教大学文学部教授）

10:05-10:15　問題提起　**竹中 千春**（立教大学法学部教授）

10:15-12:30　第１セッション：21 世紀のインド洋をめぐる海の国際政治
- 司　会　**中溝 和弥**（京都大学大学院アジア・アフリカ研究科准教授）
- 報告者　**堀本 武功**（放送大学客員教授）
- **ルパック・ボラー**（台湾国立中興大学招聘研究員）
- **竹内 幸史**（立教大学アジア地域研究所特任研究員）
- 討論者　**竹中 千春**（立教大学法学部教授）

12:30-13:30　昼食休憩（キャンパス内外にコンビニエンスストアやお店があります）

13:30-15:45　第２セッション：21 世紀の東アジア・太平洋をめぐる海の国際政治
- 司　会　**竹中 千春**（立教大学法学部教授）
- 報告者　**プルネンドラ・ジェイン**（アデレード大学教授）
- **藤原 帰一**（東京大学大学院法学政治学研究科教授）
- **高原 明生**（東京大学大学院法学政治学研究科教授）
- 討論者　**劉傑**（早稲田大学大学院社会科学研究科教授）

15:45-16:00　休憩

16:00-17:45　第３セッション：21世紀アジアのグローバル・シティから見た海の国際政治
- 司　会　**倉田 徹**（立教大学法学部准教授）
- 報告者　**HENG, Yee Kuang**（国立シンガポール大学リークアンユー公共政策研究科准教授）
- **沈 旭暉**（香港中文大学社会科学院副教授）
- 討論者　**田村 慶子**（北九州市立大学法学部教授）

17:45-18:00　閉会の言葉　**竹中 千春**（立教大学法学部教授）

【申し込み方法】参加ご希望の方は、事前にメールでお申込ください。
「12/12 国際シンポジウム参加希望」を件名として、①お名前（フリガナ）②ご所属を明記の上、welcomerikkyo2015@gmail.com 宛て、2015 年 12 月10 日（木）までにお送りください。会場の座席数に限りがあるため、先着 100 名様とさせていただきます。
お問い合わせの場合は、件名に「問合せ」と書いて、上記メールアドレスにお送りください。

主催：立教大学アジア地域研究所平成25-27年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「21世紀海域学の創成－「南洋」から東シナ海・インド洋・太平洋の現代的ビジョンへ－」
国際交流基金2015年度アジア・文化創造協働助成プログラム「インド・太平洋時代のアジア新秩序：日本・ASEAN・オーストラリア・インドにおけるアジア研究の知的協働」
協力：日本学術振興会 科学研究費補助金基盤研究(A)2014-2016年度「中国・インド大国化とアジア―内政変動と外交変容の交錯」